国際交流新聞
～グローバル社会コース～

第二号
2023.12.01

[制作]
聖心女子大学
国際交流学科
グローバル社会コース
広報委員

本学創立75周年記念シンポジウムにグロ社生が登壇

はじめに

十一月四日、国際交流学科グローバル社会コース二年の岩谷舞衣さんが、「聖心女子大学創立75周年 記念シンポジウム【第二部】シンポジウム『グローバル共生の今を生きる聖心生』」にて、在校生代表として登壇しました。

シンポジウム前半では、本学卒業生である、二〇二一年にゴールドマン環境賞を受賞された平田仁子さん、一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト(GiFT)代表理事の辰野まどかさん、独立行政法人国際協力機構(JICA)所属の増田京美さんからお話を頂き、続けて岩谷さんが学生の立場で発表後、登壇者4名と司会によるパネルディスカッションが行われました。

登壇者
岩谷舞衣さんの声

私は在校生の代表として、自身の今までの大学生活を経て変容した価値観や考え方、学生主体の有志活動などについて発表しました。

環境問題が重要視されていなかった頃から危機感を持って行動されていた平田さんのお姿から、見過ごしている課題があるのではないかと顧みる気持ちにさせられました。辰野さんの活動を伺い、多様性は認めるだけでなく活かしてこそという一歩進んだ意識にアップデートできたように思います。増田さんが仰っていた「等身大の私」という表現が非常に印象的で勇気づけられました。これは、何者かになろうとするのではなく、ありのままで出来ることを真摯に行うことが大切だというメッセージでもあるのではないでしょうか。

大先輩方と交流させて頂く貴重な機会を賜り、後から感じたことがあります。それは、今を生きなければならないということです。目の前のタスクに集中することはもちろんのこと、日々起きていることに意識を向けるべきだと思います。目にした事象の規模や自身との距離に関わらず、今起きていることを自分と切り離して捉えるよりも、どこかで繋がりがあると捉える方が、自分ができることに気付きが多いです。私は日々学び続けることを欠かさない先輩方の姿勢を規範に、今を生きていきたいと思います。

卒業生との交流を通して学んだ「今を生きなければならない」ということ

さいごに

編集者自身も本シンポジウムの会場で参加し、自己変容やより持続可能な社会に向けて自分自身は何ができるのかを考えました。岩谷さんがパネルディスカッションで発言したように、学生という何にでも挑戦できる時間にこそ、恐れずに行動への第一歩を踏み出したいと思います。

共に学ぶ仲間が偉大な先輩方と登壇している姿を見て、誇りに思うと同時に自分の学びにより一層励みたいと感じました。

協力：岩谷 舞衣
（グローバル社会コース二年）
編集：齊藤 葵
（グローバル社会コース二年）